



万灯会 (毎年8月16日)

# お盆に寄せて

## 慈悲の心 寛容の心

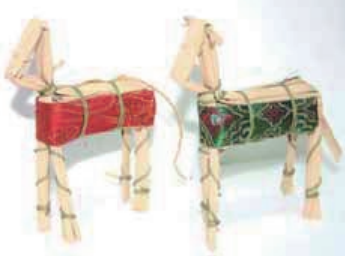
融通念佛宗管長  
倍 巖 良 舜

なしている所もあるようです。

昭和二十年八月十五日は終戦の日、それ以前の日本の社会では商店につとめる丁稚さんたちは丁稚奉公といって殆ど無給で働き、盆と正月に三日位の休みがあるだけであとは年中無休で働いていました。今のサラリーマンの多くは土曜、日曜、祝日、有給休暇等で年間百日以上が休日ということで昔のことを思えば隔世の感があります。勿論サービス業等で土曜、日曜、祝日が大変忙しいという職種も沢山あります。お寺もその一つで日曜、祝日には法事等が重なって大忙しになります。

昔は盆と正月は一年中で最も大事な特異日でありました。お盆は正しくは盂蘭盆といいますが、ウランバナというインドの古い言葉からきていて亡き親などへの追善を願って盆器に食事等を盛ってお供えする風習が生まれました。ウランバナの語源は倒懸(たかご)といって逆さ吊りのことでお釈迦様のお弟子の目連尊者が地獄・餓鬼の世界で苦しんでいる母の姿をみて、何とか救いたいと思ってお釈迦様にお願ひした所「盂蘭盆会」を行うように示され、それを実行して母を救ったとされています。

中国では唐の時代に七月全体を盆の月と称し、特に十六日までの前半に精霊棚を作りいろんなものを供えて先祖供養を行うようになりました。農作業の関係で八月に行く所も多くあります。関西でも八月にお盆の行事を行っています。写真の牛と馬は東京のお家でお盆(七月)に仏壇でまつられていたもので「わら」製の縦十センチ、横八センチ位のかわいいものです。お盆になると御先祖様に馬に乗って早く帰って来て下さい。お盆が終ると牛に乗ってゆつくりとお浄土へ戻って下さいという意味でまつられています。所によつては「きゅうり」に足をつけて馬となし、「なすび」に足をつけて牛と



盆は御先祖様を特別丁重にお迎えをしてもてなす大切な日です。親は二人ですが十代さかのぼると一千二十四人の親になり二十代さかのぼると百四万八千五百九十六人、三十代さかのぼると十億人以上、四十代さかのぼると一兆九百九十五億人以上というものすごい数の親がいたことになり、無数の縁がからみあつて今日の日自分がいることを考えれば命は大事にしなければなりません。一人一人みんな命は大事なんだから人の命を奪う犯罪は最も大きな悪業です。

「情」の欠如、すぐキレるという現代病をいやすには慈悲の心、寛容の心というお薬を調合してあげることです。

# 広めよう融通念仏の輪

## 「融通念仏と平和への祈り」

融通念仏宗は、広く融通念仏の様々な方面を多くの人々に知って頂くために、「広めよう融通念仏の輪」という共通のテーマのもとに各教区でサブテーマを挙げて発表することになりました。平成



向って右、新屋英子さん 左、小林育栄さん

二十年度は、第三教区が発表いたします。第三教区では「融通念仏と平和への祈り」というサブテーマをあげて現代社会を生きていく現代人の我々にとって、いかに信仰生活が大切なことなのかといったことを、お一人お一人に考えて頂く場にしたいと考えております。このテーマは融通念仏という枠を越えてどの宗教にも普遍的な問題でもあります。

はじめに第一部「融通念仏宗の春夏秋冬」では、宗務総長である吉村暉英師から皆様方に融通念仏の解説を申し上げ、融通念仏宗の特徴ある行事紹介と仏教音楽に焦点を合わせてご覧頂きます。今回は無形文化財に指定されている方

部おねりの菩薩を実際に舞台上で再現してご覧頂くと考えています。また、魚山流声明の流れをくむ融通声明があります。この融通声明は特にメロディの豊かさとその美しさで有名です。しかも今回は雅楽の演奏に合わせて、この妙なるメロディをお楽しみ頂きます。もう一つ、仏教と共に輸入された雅楽、今回は楽箏(琴)・楽琵琶を交えた管弦楽としてフルオーケストラで、おなじみの越殿楽

を演奏いたします。普段は雅楽のフルオーケストラでの正式な演奏をお聞きになることは少ないと思います。お正月の余韻を残したこの時期に、普段の慌ただしい時間から離れてゆつくりと流れる時間の中で、心行くまでお楽しみ下さい。元来、声明も附楽も法要のためのものですが、今回は仏教音楽といった視点からお楽しみ頂ければ幸いです。第一部のこれらの企画は、融通念仏宗の菩薩役・讃師・座奉行・楽役の皆様のご理解とご協力で演出可能になりました。この場をお借りして心よりお礼を申し上げます。

さて第二部「星砂・・・オキナワ」では、あの「必殺仕事人シリーズ」や「嫁と姑」等々有名な鶴野昭彦氏の作・演出による新屋英子・小林育栄、二人芝居を上演いたします。新屋英子さんが、存在感溢れる感性豊かな新鋭女優小林育栄さんと組んで放つこの最新進委員会

作「星砂・・・オキナワ」は、沖縄の過去と現在を舞台に、戦争とは何か、平和とは何かを鋭く問いかけてながらも、笑いと涙と生きる勇気が沸き上がる、愛の感動ドラマを見せてくれます。私達はこの舞台を通して、私達日本人とは何か？生きるとは何か？を改めて問われることになるでしょう。さらには融通念仏のみならず広く「信仰に支えられた生活の大切さ」といったことに思いを馳せて頂ければ、私達の「生きる」ということが、お一人お一人に輝き始めるものだと確信しています。

我々融通念仏宗第三教区教化活動推進委員会は、第一部・第二部を通して、かなり豊富な内容で欲張って演出しております。堅苦しいことを申し上げましたが、皆様どうぞお気軽にお越し頂き、充分楽しんでお帰り頂ければ幸いです。融通念仏宗の檀家様以外で興味のございます方が居られましたら、是非是非ご紹介下さいますようお願い申し上げます。

この発表会の詳細は、Google・Yahoo・Infoseek・goomn などから「融通念仏と平和への祈り」で検索されますとご覧いただけます。

融通念仏宗第三教区教化活動推進委員会

インターネットで大念仏寺の情報をご覧下さい。  
<http://www.dainenbutsuji.com/>



お十夜会とは「無量寿経」というお経の中に「この世において十日十夜の間善行を行うことは、仏の国で千年間もの善行をすることより尊い」と説かれている教えを實踐したもので、今では満行となるこの日一日のみのお参りですが、阿弥陀さまのお慈悲に感謝し、功德を得ていただく法要です。また、この日に施される小豆のお粥は病氣(風邪)や怪我などを払い災難から身を守るといわれています。

この日、本堂で午後一時よりお勤めが行われ、引き続き融通念仏宗布教師によるご法話を聴いていただき、また融通教会による魚山流詠歌舞の奉納をご観覧下さい。また管長猥下さまより直々にご参詣いただいた方お一人お一人にお加持をいただきますので、ご家族揃って是非お参り下さいますようご案内致します。

胎内仏法要とは正式には菩薩引接胎内仏開眼法要といえます。大念仏寺での納骨には一般納骨と胎内仏納骨とがあります。この胎内仏納骨はまずご霊骨を小さな仏さまの中に入れていただき、その小仏を胎内仏法要で大きな菩薩さまの胎内に個別にお入りいただく納骨方法です。

胎内仏法要では一年間(十月一日から次年の九月三十日)に納骨されたご霊骨をご参詣された方々のおられる本堂外陣(娑婆世界)より万部法要でおなじみの菩薩さまが本堂内陣右側特別祭壇(極楽世界)に安置された菩薩さま(胎内仏)に導いて下さいます。

この胎内仏法要は納骨されたご

お十夜会とは「無量寿経」というお経の中に「この世において十日十夜の間善行を行うことは、仏の国で千年間もの善行をすることより尊い」と説かれている教えを實踐したもので、今では満行となるこの日一日のみのお参りですが、阿弥陀さまのお慈悲に感謝し、功德を得ていただく法要です。また、この日に施される小豆のお粥は病氣(風邪)や怪我などを払い災難から身を守るといわれています。

この日、本堂で午後一時よりお勤めが行われ、引き続き融通念仏宗布教師によるご法話を聴いていただき、また融通教会による魚山流詠歌舞の奉納をご観覧下さい。また管長猥下さまより直々にご参詣いただいた方お一人お一人にお加持をいただきますので、ご家族揃って是非お参り下さいますようご案内致します。

胎内仏法要とは正式には菩薩引接胎内仏開眼法要といえます。大念仏寺での納骨には一般納骨と胎内仏納骨とがあります。この胎内仏納骨はまずご霊骨を小さな仏さまの中に入れていただき、その小仏を胎内仏法要で大きな菩薩さまの胎内に個別にお入りいただく納骨方法です。

胎内仏法要では一年間(十月一日から次年の九月三十日)に納骨されたご霊骨をご参詣された方々のおられる本堂外陣(娑婆世界)より万部法要でおなじみの菩薩さまが本堂内陣右側特別祭壇(極楽世界)に安置された菩薩さま(胎内仏)に導いて下さいます。

この胎内仏法要は納骨されたご



# 深まった融通念佛宗の絆に感謝

融通念佛宗 第七教区 教区長 檀 忍 澄  
(教化活動実行委員長)

第四回教化活動「狂言と菩薩来迎の世界」(満たされる心・融通の灯)をメインテーマに奈良県橿原文化会館大ホール(千三百名収容)をお借りし、昨年十二月十五日(土)開催致しました所、大ホール満席の元、終了することが出来ました。ご本山並びに融通念佛宗諸役の皆様はじめ、多くの方々のご協力を得ましたこと、厚く御礼申し上げます。また、参加いただいた方々から多くの賞賛の言葉を頂きました事に教区を代

表して御礼を申し上げます。

思い起こせば、私自身教区長に就任致しました時より、教化大会をどう行かか大きな課題で、先ず実行委員会を設置し協議を重ね、当初は雲をつかむ状態でしたが、内容等次第に決定して参りましたが、

第一部の「融通念佛宗の歴史と緑の地」の 슬라이ドでは、手作りの 슬라이ド制作に取り組みました。第二部の狂言「京都大原良忍物語」では、和泉流狂言師・小笠原匡師、ご本山はじめ諸役の皆さん

のご協力を得ることができ、宗をあげての活動となる事が出来ました。特に第一教区の関係の皆様には原作の提供をはじめ、色々とお世話になり本当に有難うございました。

また、第三部の「平和祈願式典」では管長猥下御自ら導師をお勤め頂き、最後に参加者の健康祈願の「お十念」をお授け頂きました。この教化活動を通して、我が融通念佛宗の絆がより深まり、第七教区各寺院の結束がさらに強まったこと、又、この教化活動発表会に参加いただいた全ての皆さんに、融通念佛宗の素晴らしさと融通念佛のこころを、ご理解頂けたことなど、多くの成果が得られたと思っております。

## 第四回融通念佛教化活動に参加して

はじめに

平成二十年私は喜寿を迎える歳となりました。七十余年間融通念佛宗の檀信徒として赤ちゃんの時代から今日まで良忍上人のお膝もとで、いや良忍上人様に直接抱かれて成長を遂げて来ました。

成育途上では、幾多の苦難にも遭遇しました。けれども、結果として平成二十年二月三日七十七回目の誕生日を無事に迎え先々の年を数える希望で満ちています。この上ない有り難い日々の流れです。その流れの中に昨年十二月十五日第七教区教化活動の知らせが舞い込みました。二つ返事で参加を決定。当日を待ちました。

### 第一部 融通念佛宗の歴史とゆかりの地

昨秋、紅葉の真盛りに家内と京都大原三千院を中心に散策をし



も横目で見つめ、来迎も宝泉院音無の滝の方向すら知りませんでした。なんと、良忍上人様への認識のなさを恥じたものでした。今秋は必ず大原で泊を決め一寺院

第七教区浄福寺檀信徒 川畑 明

ります。これらは全て、多くの人々のご協力とご支援のお陰であると重ねて感謝申し上げます。今後、この教化活動が、各教区のご努力でますます盛大且つ意義あるものとなりますよう願ひ、教化活動を終えての御礼の挨拶とさせていただきます。

尚、式典当日には、若手僧が行いました歳末助け合い募金にもご協力いただき、募金額二十九万九百十八円は、奈良県福祉協議会にご寄付させていただきました。ここに重ねて厚く御礼申し上げます。

く仏性が発する風の音。いや、風ではない。如来身が発する、発するという物理現象ではない。自然な余りにも自然な音の流れなのである。大きな渦に巻き込まれ音のない世界で音を尋ねる心地さえた。時間の経過を超え空の世界を感じましたかと思えばかりの心地であった。我に返つた時はすでに良忍・頼澄が舞台から姿を消していくところであった。

第三部 平和祈願式  
戒香定香解脱香.....  
我昔所造諸悪業.....

残らず巡りたい衝動に駆られていくところです。  
第二部 創作狂言「新・京都大原良忍物語」  
大ホールの隅々まで響き渡る、良忍・頼澄のセリフ。ひとつの物体を貫き他の物体も同じ強さで貫通させる澄み切った声。相手の心臓に容赦なく刺さり来る声。声であって声でない魂の叫び。あれは叫びではない。悩み多き娑婆に住む人間を薙ぎ倒し、切り削っていく



# 青年会活動報告

青年会会長 伊藤 宗 純

私達、融通念佛宗青年会では、青年僧らしく若さを行動力で日々活動しています。日頃の活動内容は、各法要・行事への参加や会員個人の研鑽を目的とした講習会・勉強会の開催です。講習会は仏教やわが宗に関する事はもちろん、昨年は「医療現場の現状」や「生活習慣病」について現役の医師をお迎えしてのものや、本山のお茶室をお借りして、茶会形式で行なわれた茶道入門の講習会など青年僧に必要なと思われる様々なものがありました。これらの講習会や活動内容は毎月十一日の定例会で会員自らの提案や意見交換で実現されています。

対外的な活動としては現在、全日本仏教青年会に加盟し、毎年四月二十六日「青年仏教徒の日」に奈良・東大寺で厳修されます『仏法興隆・花まつり千僧法要』への参加や宗派を超えた青年僧との交流や意見交換も活発に行っており



要の素晴らしさを知って頂きたいと思ひ「菩薩様ぬり絵」を企画・展示いたしました。本当にたくさんの方々にご参加頂き、幼いお子さんから九十歳を越える方まで、期間中に休憩所で塗って頂いたものも含め、今年は千二十枚も展示することができました。法要終了後の五月十三日には青年会僧侶によって、皆様の書かれたお願ひごとが叶うことを祈念した、祈願成就の法要を執り行いました。

ぬり絵を楽しむ、お願ひごを真剣な眼差しで書いて頂いた皆様、期間中ご協力、お気遣い頂いた方々に深く感謝いたします。  
ぬり絵用紙は昨年完成した青年会ホームページ <http://uzusai.com> からダウンロードして頂けますので、来年もよりたくさんのお願ひごが菩薩様に届きますよう、素晴らしき作品を青年会会員一同、心よりお待ちしております。



また今年も五月の万部法要期間中に毘沙門堂横の休憩所にて、一人でも多くの方にお参り頂き、法

# 末寺巡礼 ⑫ 大阪東部の寺々

大東 良清

## 長覚寺

東大阪市衣摺二丁目十一・二十三

この寺は、元和八（一六二二）年等空上人による開基と伝えられている。当時は村の信徒が講を作つて寺を維持するという看坊寺院であった。初代住職覚誓が就任した延宝四（一六七六）年以後三百年以上を経て現在に至っている。日本書紀によると、この付近一帯は日本の古い史跡、淡川の稲城があった所で、物部守屋と蘇我馬子が仏教の興隆をかけて戦つた古戦場で、衣摺という地名は聖徳太子が止むを得ぬ戦いのため亡くなった守屋を惜しんで守屋戦死の大塚に袖を摺りつけて落涙されたのでこの地を衣摺と呼ぶと記録にある。



長覚寺

## 一乗寺

東大阪市長田二一八・一九

東大阪長田にある大融山一乗寺と号すこの寺は、旧長田村の中央字（アザ）中の町と呼ばれた所にある。一乗寺は天正八（一五八〇）年に親信上人の開基で、約四〇〇年前に開山した。

寺には南北朝時代前後の作である絹本着色善光寺阿彌陀三尊図が残されている。近年の修理で三尊部分は描き改められているが、その下の須弥壇や不動明王、毘沙門天の二像の緻密な描法などは当初の趣を多分に残している。善光寺式阿彌陀三尊は鎌倉時代以降、各地で信仰され彫像は数多く伝わっているが、仏画は非常に少なく、一乗寺の三尊図は鎌倉期の余影を留める貴重な遺品として、東大阪市の文化保護条例により有形文化財の指定を受けている。



一乗寺

## 大念寺

東大阪大連東二一六・一七一

紫雲山大念寺と号すこの寺の開基は、大正二年の『大念寺明細帳』に「本寺住職治平八元禄十二年以前ハ不明ナルモ以後今日ニ至ル二十七代入院住職左ノ如シ」とあり、元禄十三（一七〇〇）年に教山和尚が住職として晋山された記録から残っている。しかし、平野大念佛寺の末寺帳には、元禄十三年以前の記録も残っており、開基は何時ごろか不明。

よつて元禄十三年以前から、相互扶助のような形で、民衆信仰としての融通念仏の念仏道場を開いていたと考えられる。元禄十三年の教山和尚を初代住職として数え、現任職は第三十代ということになる。現本堂は、昭和五十七年四月に再建され、第二十九代前良全住職が四年がかりで描いた約八十枚の花の絵天井が特徴。本堂以外に地藏堂・大師堂があり、現存した村のお寺としての形跡を偲ばせている。



大念寺

## 大通寺

大阪府城東区諏訪二丁三十一・三十四

萬峰山大通寺と号すこの寺は、大阪市の最東端にあり、五十メートルほど進むと東大阪市になる。この付近は旧名を左専道と呼ばれていて左専道はここを通る道路の名前でもあった。足代から北へ伸びる細い道が左専道で後に放出街道となった。

延喜元（九〇一）年菅原道真が太宰府に左遷される途中、現在の諏訪神社で休憩したこと、この付近を「左遷道」と呼んだといわれている。大通寺は寛文六（一六六六）年に撰州左専道村道場を改め大通寺となった。約三四〇年前のことである。ご本尊の十一尊天得如来の掛け軸は享和元（一八〇）（一八〇）年に、（一）年に、感得如来の変像を新調したと記録にあり、約二一〇年の歴史を持つ。



大通寺

## いのちのつながりを求めて えま&慧奏コンサートと念仏会開催

五月二十四日（土）大念佛寺瑞祥閣にて別時念仏の会主催による、念仏会のイベントが行われました。

今回は音楽コンサートと共に念仏会を開催する初の試み。コンサートのお陰で、これまでの念仏会に見られなかった幅広い年齢層の方々、百五十名ほどの参加がありました。会場は満杯の大盛況となりました。えま&慧奏さんはご夫婦で様々な民族楽器を演奏される音楽活動

を行われております。えまさんは中国の楽器二胡を、慧奏さんは電子ピアノを主に使われておりましたが、特に慧奏さんが奏でられたオーストラリアの先住民アボリジニの民族楽器「ディジュリドゥ（巨大な尺八のようなもの…写真）」の音色は独特の響きで聴衆を魅了しました。曲目も北海道アイヌや沖縄のもの、果てはモンゴルや南太平洋のものまで幅広く演奏され、



心癒される約一時間の音楽リフレッッシュを経験しました。別時念仏の会では次の音楽イベントも企画されております。念仏会と音楽を通して、普段の生活で見失いがちな自分の「いのち」と向き合い、その「ふれあい」や「つながり」を考える、そういう機会にしたい

ただけると期待しております。また、別時念仏の会では昨年に続き「第二回夏休み修行体験一子供念仏会」を左記の要領で開催されます。

日時：七月三十日、三十一日（一泊二日）  
定員：十五名  
参加料：五千五百円  
場所：奈良県宇陀市菟田野区補陀寺  
連絡先：東大阪大連東二一六・一七一 大念寺住職 栗山康永  
TEL/FAX:06(6711)1759

# 大念佛寺年中行事ご案内（八月～年末）

## ◎精霊流し

八月十五日  
午前十時～午後四時

## ◎盂蘭盆・法界大施餓鬼

八月十六日 午後七時

## ◎万灯会

八月十六日 午後八時

## ◎大和御回在御出光

九月二日 午前六時

大念佛寺から毎年大和地方に御本尊の天得如来の画軸を奉持し、鉦を叩きながら末寺と檀家の家々を回り、御祈禱と先祖供養を行います。

## ◎元祖聖応大師の念仏勧進の姿を今に伝える行事です。

## ◎融通念仏会

九月十六日 午前十一時

ご一緒にお念仏を称えましょう。

## ◎百万遍会

九月十六日 午後十二時三十分

法主親下の身体堅固のお加持が参詣人一人一人に授けられます。

## ◎秋季彼岸会

九月二十三日

その後御礼授受。

## ◎亀鉦まつり

十月十五日 午前十時

本山に伝わる亀鉦をお祀りし法要の後、融通教会会員による詠讚歌舞奉納、「亀鉦由来和讃」等を歌唱します。

## ◎胎内仏納骨法要

十一月三日 午後一時～三時

## ◎十夜会

十一月十四日 午後一時

本堂に於いて布教、詠讚歌舞奉納等があります。（厄除がゆ施与）

## ◎大和御回在御帰院

十二月十九日 午前十一時三十分

## ◎除夜法要

十二月三十一日 午後十一時

## ◎鐘撞き、ぜんざい施与

（鐘撞き、ぜんざい施与）

## ◎定例布教

毎月二十六日 午後一時三十分

（二十六日が日曜の場合二十七日に変更します）

## ★瓦勧進のご案内

一口二千円で受け付けております。

## ★写経のご案内

毎月二十六日、午前十時より午後三時まで、白雲閣一階大広間で写経（二巻千円）を行なっております。

（写経用具は用意しております）

## ★納骨のご案内

本堂に於いて、午前九時三十分より午後四時まで年中無休で納骨を受け付けています。

宗派は問いません。

お問い合わせ

☎〇六・六七九一・〇二〇六

**年中御伺**

融通念仏宗本山 大念佛寺

管法主	倍巖	良舜
宗務総長	吉村	暉英
教学部長	中江	慈光
庶務部長	岡田	眞澄
財務部長	北川	全宏

**話せば、心も軽くなる** 大阪仏教テレビホン相談室

仏事相談、信仰相談、その他あらゆる人生相談を宗派の僧侶がお受けします。

月曜日：浄土真宗本願寺派・真宗大谷派 火曜日：天台宗・真言宗  
水曜日：臨済宗・曹洞宗・黄檗宗 木曜日：日蓮宗 金曜日：浄土宗・融通念仏宗  
（月曜日・金曜日 一月十四日・十二月二十四日（八月休））

でんわ 〇六（六二四五）五一一〇 午後二時～五時迄